

MIC Worship Service – 2024.03.03 (3<sup>rd</sup> Sunday in Lent)

Title: “*The Cross: God’s Wisdom and Power*”

Text: 1 Corinthians 1:18~25, NIV

MIC 礼拝 - 2024.03.03 (四旬節 第3主日)

『十字架：神の知恵と力』

聖書箇所：コリント人への手紙第一 1 章 18 – 25 節 (新改訳)

<sup>18</sup> For the message of the cross is foolishness to those who are perishing, but to us who are being saved it is the power of God. <sup>19</sup> For it is written: “*I will destroy the wisdom of the wise; the intelligence of the intelligent I will frustrate.*”

<sup>20</sup> Where is the wise person? Where is the teacher of the law? Where is the philosopher of this age? Has not God made foolish the wisdom of the world? <sup>21</sup> For since in the wisdom of God the world through its wisdom did not know him, God was pleased through the foolishness of what was preached to save those who believe. <sup>22</sup> Jews demand signs and Greeks look for wisdom, <sup>23</sup> but we preach Christ crucified: a stumbling block to Jews and foolishness to Gentiles, <sup>24</sup> but to those whom God has called, both Jews and Greeks, Christ the power of God and the wisdom of God. <sup>25</sup> For the foolishness of God is wiser than human wisdom, and the weakness of God is stronger than human strength.

18 十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。

19 それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなくする。」

20 知者はどこにいますか。学者はどこにいますか。この世の議論家はどこにいますか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。

21 事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。

22 ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシア人は知恵を追求します。

23 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、

24 しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。

25 なぜなら、神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

## Introduction

Oswald Chambers (Scottish evangelist): “*All heaven is interested in the Cross of Christ, all hell is terribly afraid of it, while men are the only beings who more or less ignore its meaning.*”

今朝は、オズワルド・チェンバース（スコットランドの伝道者）の言葉で始めたいと思います。彼は、「天はキリストの十字架に関心を持ち、地獄はキリストの十字架をひどく恐れている。そして、その意味を多かれ少なかれ無視しているのは人間だけである。」と、言いました。

## I. How people see the Cross of Christ – verse 18

ではこの聖書箇所を読んで、当時の人々が「**キリストの十字架をどのように見ていた**」のかを考察していきましょう。

### I. 人々はキリストの十字架をどのように見ているかー18 節

*<sup>18</sup> For **the message of the cross** is foolishness to those who are perishing, but to us who are being saved it is the power of God.*

**18 十字架のことば**は、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。

The central emphasis of verse 18 lies in contrasting the perception of the Cross between those who are perishing (unsaved) and those who are being saved.

18 節では、滅びに至る人々（救われていない者）と、救いを受ける人々（救われた者）の十字架への認識を対比しています。

**A. The Cross as a foolish idea.** The Apostle Paul starts by acknowledging that “***the message of the cross***” seems foolish to the world. These words sound kind of noble and religious to our contemporary ears. But in the 1<sup>st</sup> century, saying *message of the Cross* was about the same as saying *message of the death penalty*! What significance can be derived from a harsh, degrading, and relentless tool of death? It's no surprise that such a message appears foolish to those facing destruction.

まず、滅びに至る人々（救われていない者）は、『**十字架を愚かな考え**』として見ていました。

#### A. 十字架は愚かな考え

使徒パウロはまず、「**十字架のことば**」が世間には愚かに見える（聞こえる）ことを認めています。現代の私たちの耳には、十字架の言葉は、ある意味、高貴で宗教的に聞こえます。しかし、1 世紀当時は、十字架のメッセージ（ことば） と言えば、死刑のメッセージ（ことば） と同じようなものでした。そのように、過酷で、卑劣で、容赦ない、死への道具となってしまう十字架のことばから、どのような意義が導き出されると言うのでしょうか？十字架の言葉が、滅びに直面している人々にとって愚かに見えるのは当然のことでした。

**B. The Cross is the power of God.** The Cross, an instrument of death, becomes the symbol of life for believers. This paradoxical truth challenges worldly wisdom.

それとは相反して、救いを受ける人々（救われた者）は、『十字架を神の力』と見ていました。

## B. 十字架は神の力

『死』の道具である十字架は、信者にとっては『命』の象徴にもなります。そして、この死と命という逆説的な真理は、この世の知識に問題を投げかけることになりました。

The authentic gospel, when embraced with faith, carries power. Welcoming and trusting in the genuine gospel unleashes the power of God in one's life.

本物の福音は、信仰をもって受け入れるなら力を持ちます。本物の福音を受け入れ、信じるということは、その人の人生において神の力が解き放たれるということになります。

ILLUSTRATION: DMI Video from Pastor Andrew -  
<https://www.youtube.com/watch?v=ZKbB51LvEH0>

今から、アンドリュー牧師の DMI のビデオを見ていただきたいと思います。

- <https://www.youtube.com/watch?v=ZKbB51LvEH0>

While the term **"gospel"** may not be explicitly mentioned in this verse, it is found in the preceding one (v.17). According to Paul, the essence of the gospel lay in the message of the Cross. The Apostle could not proclaim the gospel without conveying the significance of the Cross.

「福音」という言葉は、この 18 節では明確に言及されていないかもしれませんが、その前の 17 節には「福音」という言葉が出てきます。パウロは、『福音の**本質**は、十字架のことばにあったのだ』と言っています。使徒たちは、十字架の意味を伝えることなくして福音を宣べ伝えることはできなかったのです。

1 Corinthians 2:2 - For I resolved to know nothing while I was with you except **Jesus Christ and him crucified**.

コリント人への手紙 第一 2 章 2 節—2 なぜなら私は、あなたがたの間で、**イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方**のほかは、何も知らないことに決心したからです。

Galatians 2:20 - I have been crucified with Christ and I no longer live, but Christ lives in me. The life I now live in the body, I live by faith in the Son of God, who loved me and gave himself for me. God revealed Himself in the entirety of the gospel with its central focus on the incarnation and crucifixion of Christ. He showed us the divine blueprint and provision for the redemption of sinners.

ガラテヤ人への手紙 2 章 20 節—20 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

**APPLICATION:** Promoting a high moral standard, advancing social justice, affirming the universal fatherhood of God, or highlighting the universal brotherhood of mankind does not qualify as the proclamation of the gospel. According to Paul's definition, *the essence of the gospel fundamentally lies in the message of the Cross.*

道徳的に良いことをもっと推進したり、社会正義を推進したり、神の普遍的な父性を確めたり、人類の普遍的なきょうだい愛を強調したりすることは、福音を宣べ伝えていることにはならないのです。パウロの定義によれば、福音の本質と根本は、十字架ということばにあると言っています。

## II. God revealed His *wisdom* through the Cross of Christ – verses 19~21

では次に、

『神がキリストの十字架を通して、ご自分の知恵を現された』 ことについて見ていきましょう。

### II. 神はキリストの十字架を通してご自分の知恵を現されたー19～21 節

***<sup>19</sup> For it is written: “I will destroy the wisdom of the wise; the intelligence of the intelligent I will frustrate.” <sup>20</sup> Where is the wise person? Where is the teacher of the law? Where is the philosopher of this age? Has not God made foolish the wisdom of the world? <sup>21</sup> For since in the wisdom of God the world through its wisdom did not know him, God was pleased through the foolishness of what was preached to save those who believe***

19 それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなくする。」

20 知者はどこにいますか。学者はどこにいますか。この世の議論家はどこにいますか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。

21 事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。

Verse 19 is a quotation from Isaiah 29:14. It tells us that God shatters spiritual pride in man with His wisdom. There is no wise man, no law expert, and no debater/philosopher who can do what Jesus Christ has done.

19 節はイザヤ書 29 章 14 節からの引用のような節です。その箇所では、『神は、その知恵によって人間が霊的に高慢にならないように心を打ち砕く』と言っています。そして、イエス・キリストと同じことができる賢者はいないし、イエスのような法律の専門家や、論客や哲学者もいないと言っています。

I don't know about you, but many tend to believe that the most intelligent and wise individuals will possess the deepest understanding of God. However, the divine cannot be grasped through human wisdom; rather, *it is only through the message of the Cross that one can encounter God.* The pursuit of human wisdom may lead to temporal satisfaction or happiness, although this is

seldom the case, and in and of itself, it can never unveil the genuine knowledge of the true God. King Solomon, the wisest king who ever lived wrote:

皆さんがどうかはわかりませんが、多くの人は、最も知的で賢い人だけが、最も深く神に対する理解を持っていると考える傾向があるようです。しかし実は、神は人間の知恵ではとうてい理解できないのです。むしろ、十字架の言葉によってのみ、人は神と出会うことができるのです。神を人間的な知識で理解しようとする、一時的に満足や幸福をもたらしてくれるかもしれませんが、そのような理解だけでは神に対する真の知識は十分ではないのです。

歴史上、最も賢い王だったソロモン王は、次のように書いています。

**Ecclesiastes 2:15** - *Then I said to myself, "The fate of the fool will overtake me also. What then do I gain by being wise?" I said to myself, "This too is meaningless."*

伝道者の書 2 章 15 節—15 私は心の中で言った。「私も愚かな者と同じ結末に行き着くのなら、それでは私の知恵は私に何の益になろうか。」私は心の中で語った。「これもまたむなしい」と。

I may be generalizing but frequently, the most educated individuals exhibit the least reverence for God. While exceptions exist, with some of history's brilliant minds embracing Christianity, like Isaac Newton, generally, the more one esteems their intelligence, the less reverence they hold for God. Human "wisdom" persistently resists and opposes God, ultimately revealing its own folly and the reason why they will perish.

一般論かもしれませんが、最も教養のある人ほど、神への畏敬の念を持たないと言われていきます。アイザック・ニュートンのようにキリスト教を受け入れた歴史上の秀才もいますが、例外はあるものの、一般的に、知性が高ければ高いほど、人々の神への畏敬の念は薄れていくようです。『人間の知恵』は、神に執拗に抵抗し、逆らい、最終的には『知恵』みずからの愚かさを露呈し、みずから滅びる理由となってしまうのです。

**ILLUSTRATION:** There's an anecdote that occurred in one of Albert Einstein's classes, where students asserted their disbelief in God. Einstein, in response, questioned the extent of the collective knowledge within the class. After deliberation, the students concluded that they possessed 5% of all human knowledge. Einstein thought that their estimate was hyperinflated, then posed a thought-provoking question: *"Is it possible that God exists in the 95% that you don't know?"*

アルベルト・アインシュタインのある逸話があります。ある授業中のことでした、彼が教えている生徒たちが神を信じていないと主張しだしたのです。それに対してアインシュタインは、クラス全体に、『あなた達はどれくらい知識があるだろうか?』と質問しました。生徒たちは熟考の末、自分たちが知っている知識は全世界の知識の 5% だと返答しました。するとアインシュタインは、生徒たちが自分を過剰評価しているなど考え、示唆するように彼らに質問を投げかけました。それは次のような質問でした。「では、君たちが知らない 95% の中に神が存在する可能性はあると思うかね?」

Paul isn't condemning all learning or education; he merely says that by themselves they are useless for obtaining spiritual wisdom. He emphasizes that God chose the foolish things of the world to shame the wise. God's ways often confound human reasoning, demonstrating His sovereignty and wisdom.

パウロはすべての学問や教育を非難しているのではなく、霊的な知恵を得るためには、学問や教育だけでは役に立たない（十分ではない）と言っているのです。パウロは、知恵ある者を辱めるために、神はあえて愚かな者を選んだのだと強調しています。神の方法は、しばしば、人間の理性を混乱させて、神の主権と知恵を示すというやり方なのです。

1 Corinthians 1:27 - *But God chose the foolish things of the world to shame the wise; God chose the weak things of the world to shame the strong.*

コリント人への手紙 第一 1章27節—27 しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。

C.H. Spurgeon: *"It is certain that a blind man is no judge of colors, a deaf man is no judge of sound, and a man who has never been quickened into spiritual life can have no judgment as to spiritual things."*

イギリスの伝道者である C.H.ス波尔ジョン は、「盲人は色の判断ができず、耳の聞こえない人は音の判断ができず、霊的な命によみがえったことのない人は、霊的なことについての判断ができないことは確かである。」と言いました。

### III. God revealed His power through the Cross of Christ – verses 22~25

最後に、『神はキリストの十字架を通してその力を現された』ことについてお話しします。

#### III. 神はキリストの十字架を通してその力を現した— 22 ~ 25 節

<sup>22</sup> *Jews demand signs and Greeks look for wisdom,* <sup>23</sup> *but we preach Christ crucified: a stumbling block to Jews and foolishness to Gentiles,* <sup>24</sup> *but to those whom God has called, both Jews and Greeks, **Christ the power of God and the wisdom of God.*** <sup>25</sup> *For the foolishness of God is wiser than human wisdom, and **the weakness of God is stronger than human strength.***

22 ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシア人は知恵を追求します。

23 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、

24 しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、**キリストは神の力、神の知恵なのです。**

25 なぜなら、**神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。**

**A. Among the Jews.** There persisted a continual desire for a sign, particularly a miraculous Messianic deliverance. However, their focus was not on the message of the Cross.

#### **A. ユダヤ人の間で**

ユダヤ人たちは、『しるし』や特に奇跡的なメシア（救世主）の解放を求め続けました。しかし、当時のユダヤ人たちの焦点は、十字架のことばではありませんでした。

Psalm 74:9 - *We are given **no signs** from God; no prophets are left, and none of us knows how long this will be.*

詩篇 7 4 篇 9 節—9 もう私たちの**しるし**は見られません。もはや預言者もいません。いつまでそうなのかを知っている者も、私たちの間にはいません。

Luke 23:8 - *When Herod saw Jesus, he was greatly pleased, because for a long time he had been wanting to see him. From what he had heard about him, **he hoped to see him perform a sign of some sort.***

ルカの福音書 2 3 章 8 節—8 ヘロデはイエスを見ると非常に喜んだ。ずっと前からイエスのことを聞いていたので、イエスに会いたいと思っていたし、**イエスの行う何かの奇蹟を見たいと考えていたからである。**

John 2:18 - *The Jews then responded to him, "**What sign can you show us** to prove your authority to do all this?"*

ヨハネの福音書 2 章 1 8 節—18 そこで、ユダヤ人たちが答えて言った。「あなたがこのようなことをするからには、**どんなしるしを私たちにを見せてくれるのですか。**」

John 6:30 - *So they asked him, "**What sign then will you give** that we may see it and believe you? What will you do?*

ヨハネの福音書 6 章 3 0 節—30 そこで彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じるために、**しるしとして何をしてくださいますか。**どのようなことをなさいますか。

While their yearning for deliverance was not inherently wrong, their refusal of God's chosen path for deliverance marked a divergence.

救済を切望するユダヤ人たちの気持ちは本質的に間違っていないかもしれませんが、神が選んだ救済の道を拒否して『しるし』を求めるということは、本来の意義からは、かけ離れています。

Gordon Fee (Bible commentator): *"Their idolatry was that they now had God completely figured out; he would simply repeat the Exodus, in still greater splendor."*

ゴードン・フィー（聖書注解者）は『ユダヤ人たちの偶像崇拜は、彼らが神を完全に理解していると勘違いしているところから始まっているだろう。ユダヤ人たちは、神が、エジプトから彼ら

を解放するという奇跡を何度も何度も起こしてくれて、さらにもっと素晴らしいことを起こしてくれるだろうと思っているのだ。』と、言っています。

**B. Among the Greeks.** They sought after wisdom, typically expressed in high, academic, and philosophical terms, and did not value the wisdom conveyed through the message of the Cross.

### B. ギリシャ人の間で

ギリシャ人たちは知恵を追い求めていました。彼らの知恵とは、一般的に高度で学術的、哲学的な言葉で表現されるもので、十字架のメッセージ（啓示）を通して伝えられる知恵には彼らは価値を認めませんでした。

Acts 18:4 - Every Sabbath **he reasoned** in the synagogue, trying to persuade Jews and Greeks.

使徒の働き 18章4節—4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人とギリシャ人を承服させようとした。

1 Peter 3:15 - But in your hearts revere Christ as Lord. **Always be prepared to give an answer to everyone who asks you to give *the reason* for the hope that you have.** But do this with gentleness and respect,

ペテロの手紙第一 3章15節—15 むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。

The Greeks pursuit of wisdom was not misguided, but their rejection of God's wisdom was evident. ギリシャ人の知恵に対する追求は間違っていないかもしれませんが、彼らが神の知恵を拒否していることは明らかでした。

Gordon Fee: "Their idolatry was to conceive of God as ultimate Reason, meaning of course what we deem to be reasonable."

アメリカの神学者であるゴードン・フィーは次のように言いました。「彼らギリシャ人が偶像礼拝だと言われるのは、神を究極の理性的な考えとして捉えていたからであった。」

**C.** Instead of acceding to the Jews' demand for a miraculous deliverance and the Greeks' pursuit of wisdom, God surprised them with an unexpected revelation: **a crucified Christ/Messiah!**

C.神は、奇跡的な解放を求めるユダヤ人や、知恵を追い求めるギリシア人の要求には応じませんでした。代わりに神は、**十字架にかけられたキリスト/メシア（救世主）**という、予期せぬ啓示で彼らを驚かせたのでした。



The term "**Christ**" (Messiah) denoted power, splendor, and triumph, while "**crucified**" conveyed weakness, defeat, and humiliation. Paul boldly proclaimed the paradox of Christ crucified, challenging conventional expectations.

『キリスト（メシア）』という言葉は、力、輝き、勝利を表す一方、『十字架にかけられた』という言葉は、弱さ、敗北、屈辱を表します。パウロは、『十字架にかけられたキリスト』という意味の矛盾を大胆に宣言し、人々に、今までになかった希望を与えたのでした。

Cicero, the renowned Roman statesman, deemed the Cross so shameful and horrible that it should never be mentioned in polite society. However, as Christians, embracing the Cross, with all its contradictions, is imperative, for without it, we risk spiritual loss.

ローマの高名な政治家キケロは、十字架は恥ずべき恐ろしいものであり、秩序正しい社会では決して口にすべきではないと考えました。しかし、クリスチャンとして、あらゆる矛盾を抱えた十字架を受け入れることは必須なのです。

**D, To the Jews, Christ crucified became a stumbling block, and to the Greeks, it seemed foolishness. Yet, despite cultural offense, God adhered to His gospel, for those who believed, both Jews and Greeks, recognized Christ crucified as the power and wisdom of God.**

**D.** 前述の解釈だと、ユダヤ人にとっては十字架にかけられたキリストはつまずきとなり、ギリシア人にとっては愚かなものとなってしまいます。しかし、ユダヤ人でもギリシャ人でも、信じる者は、十字架にかけられたキリストを『神の力と知恵』と認めたのでした。

Attempts to alter the gospel's emphasis for contemporary relevance overlook Paul's persistence in preaching an initially unpopular message, reaping great results. The claim that truth must adapt to the age amounts to murdering it and replacing an offensive truth with a popular lie.

昨今、福音のこのような強調点を、現代に合うように変えようとする試みもあります。しかし、パウロが当初、人々になかなか受け入れてもらえなかったメッセージをそれでも粘り強く宣べ伝え、最終的には大きな成果を得たということを見落としてはいけないのです。『真理は時代に合っていないなければならない』というような主張は、真理を殺してしまいます。そして、そのような主張はまた、人々が心地悪いと感じる真理を、心地の良い嘘に置き換えることになってしまうのです。

**E. The apparent foolishness of God at the Cross surpasses human wisdom. Salvation does not result from human wisdom but from embracing God's dramatic and unexpected act of love at Calvary.**

**E.** 十字架にかかってしまうという神の愚かさは、人間の知恵や理解を超えています。『救い』は、人間の知恵からもたらされるのではなく、カルバリー丘で起こった神の劇的な予期せぬ愛の行為を受け入れることからもたらされるのです。

**ILLUSTRATION:** If you were to look at **Rembrandt's** painting of *The Three Crosses*, your attention would be drawn first to the center Cross on which Jesus died. Then as you would look at the crowd gathered around the foot of that Cross, you'd be impressed by the various facial expressions and actions of the people involved in the awful crime of crucifying the Son of God. Finally, your eyes would drift to the edge of the painting and catch sight of another figure, almost hidden in the shadows. Art critics say this is a representation of Rembrandt himself, for *he recognized that by his sins he helped nail Jesus to the Cross.*

皆さんが、**レンブラント**の「3本の十字架」の絵を見たなら、まずイエスが死なれた中央の十字架に目が行くでしょう。そして、その十字架の足元に集まっている群衆を見て、神の子を十字架につけるという恐ろしい罪に関わった人々のさまざまな表情や行動に感銘を受けるでしょう。そして最後に、絵の端に目をやると、ほとんど影に隠れているもう一人の人物が目に入るでしょう。美術批評家たちは、それがレンブラント自身を表しているのだと言います。なぜなら、レンブラント自身が、自分も罪人であり、自分の罪によってイエスを十字架にかける手助けをしたのだと認識していたからなのです。

We need men and women of the Cross, with the message of the Cross, bearing the marks of the Cross.

私たちには、十字架のことばと、十字架の刻印を担ぐ人々が必要なのです。

## Conclusion/Application

As we navigate the complexities of life, let us embrace the seemingly foolish message of the Cross. It is in surrendering our worldly wisdom that we find the transformative power of God. Today, let us recommit ourselves to a life centered on Christ, allowing His wisdom to guide our thoughts, actions, and relationships. May the Cross, once considered foolishness, be the source of our eternal hope and the foundation of our daily living. Remember: There are no crown-wearers in heaven who were not cross-bearers here below.

人生は複雑であるということを理解して、一見愚かに見える十字架のことばを受け入れようではありませんか。この世の知恵を捨てることによって、私たちは神の変容の力（変える力）を理解することができるのです。今日、私たちは、キリストを中心とした人生に、自らをもう一度置き、キリストの知恵が私たちの思考、行動、人間関係を導いてくれるように願いましょう。かつては愚かなものと考えられていた十字架が、私たちの永遠の希望の源となり、日々の生活の基盤となりますように。天国で冠をかぶることができる人は、この世では皆、十字架を担いでいるのだということを思い出してください。

**Closing Prayer:** *“Heavenly Father, we thank you for the profound wisdom found in the message of the cross. Help us, Lord, to embrace the seeming foolishness of your ways and find our true identity and purpose in Christ. May your Spirit guide us in living out this wisdom in our daily lives. In Jesus' name, we pray. Amen.”*

最後にお祈りで締め括りたいと思います。

「天の父なる神様、十字架のことばに見られる深い知恵に感謝します。主よ、私たちは、一見愚かに見えるあなたのやり方を受け入れ、キリストの中に私たちの真のアイデンティティー（自分が何者であるかということ）と目的を見出すことができるように助けてください。あなたの御霊が、私たちの日常生活の中であなたの知恵を持って生きるよう導いてくださいますように。イエスの御名によって祈ります。アーメン」